

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	P J 28 地球温暖化対策の推進	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
総合分析の妥当性等		
	<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 県内の二酸化炭素総排出量の目標達成状況を踏まえ、業務部門や家庭部門で排出量が多い原因と課題をそれぞれ明らかにするとともに、具体的な取組みについて記述する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、二酸化炭素の排出量の主な増加原因と具体的な取組みについての記述を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> 「県民の間にもこの問題の深刻さが伝わりつつあることから、具体的な取組みについての情報を提供し、実践行動を促進していく必要がある」とあるが、課題に位置付けると同時に、白書の中に具体的な取組みを記述することで対応の一つとすることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、具体的な取組みについての記述を追加しました。
	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量についての報告しかなく、情報量が不十分である。低公害車の導入や太陽光発電設備の導入促進などインフラ整備の施策について、目標設定、計画・実施予定の変更理由、課題について記載する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回以降の白書で対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭部門の二酸化炭素排出量の削減として住宅用太陽光発電の設置を掲げているが、これが排出量削減の対策となる説明を簡潔に示す必要がある。他にこのような対策事例を示す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、住宅用太陽光発電の設置が排出量削減の対策となることの説明を追加しました。
	<ul style="list-style-type: none"> <u>マイアジェンダの新規登録者を確保するとともに、登録者のモチベーションを維持させるため、活発な運営を続ける必要がある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施の中で対応を検討します。
新たな政策課題		
	<ul style="list-style-type: none"> 	

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	P J 29 循環型社会づくり	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
総合分析の妥当性等		
	<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の発生抑制、資源化、適正処理の推進や不法投棄の防止対策については、県民、ボランティア及びNPOに必要な情報を公開し協力を積極的に求めていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施の中で対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の排出が高水準で推移し、再生利用は進まず、不法投棄が後を絶たない状況に対して、具体的にこれらの対策を検討することを課題として掲げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、廃棄物の課題に対する具体的な対策の検討についての記述を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> 排出量の中で「減量化量」とあるが、具体的にどのようなものか、説明が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に説明を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の排出量が増加する中で、最終処分量を減少させるためには再生利用の徹底などの対応が必要になると思うが、どのように施策を推進すべきなのか総合分析において記載する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、施策の推進についての記述を加えました。
新たな政策課題		

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	P J 30 丹沢大山の自然再生の推進	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
総合分析の妥当性等		
	<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 植生劣化の最大要因はニホンジカの過密化のように受けとめられ、観光客やレジャー客などによる人間活動の影響などを考慮して記述する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、植生劣化に要因に人間活動の影響等があることについての記述を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> 最大植生劣化レベルⅣ、Ⅴの管理ユニット数の目標については、植生劣化レベルそれぞれの改善程度を評価できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期計画に向けて対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 2001年から2005年のデータを引用しているが、最新のデータに更新するか、2005年までのデータを引用する理由の説明が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、最新のデータを記載しました。
	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトをとりまく課題として、シカの生態系への影響や農業被害が継続していると指摘しているため、これを踏まえた評価をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、シカの被害を踏まえた評価等について記述を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> シカが減少しながらも農業被害が顕著に減少しなかった原因の説明が必要である。また、シカの被害対策として農林業者との連携・協力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、農業被害の減少しない原因の説明等及び農林業者との連携・協力の必要性及びについての記述を加えました。
新たな政策課題		
	<ul style="list-style-type: none"> シカの生息密度に関してを2005年度以降の生息密度の調査を実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施の中で対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 戦略プロジェクト構成事業の管理捕獲の頭数が減少している妥当性について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 次期計画に向けて対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 構成事業2の「人工林と溪流生態系の再生」や3の「ニホンジカの保護管理の推進」、5のうち「自然環境情報の提供と環境学習の実施」などについては、PJ32「水源環境の総合的な保全・再生」の取組みと連携して取組むとともに、次期計画に向けて戦略プロジェクトの統合を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携については事業実施の中で検討します。戦略プロジェクトの統合については、次期計画に向けて検討します。

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	P J 31 都市と里山のみどりの保全と活用	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
総合分析の妥当性等		
	<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 県民の意識という指標を用いており適確である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 里地里山づくりの推進については、「保全活動に積極的に取り組む地域活動が見られる」など定性的な記述にとどまっているので、<u>保全活動を実施する地域数など数値データを活用した分析が必要である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 次回以降の白書で対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 「水のみどりのネットワーク」は、都市部だけでないエリアでの形成が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書にネットワークについての説明を記述しました。
新たな政策課題		

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	P J 32 水源環境の総合的な保全・再生	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
総合分析の妥当性等		
	<ul style="list-style-type: none"> 総合分析は概ね妥当である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成状況の分析で②の水源地域交流イベントなどへの参加者数は、分析が妥当でわかりやすく、定量的な評価だけでなく質の部分も十分に評価されている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 水源資源として管理している森林面積についても、具体的な数値データを引用するなどの工夫により、さらに具体的な記述を行うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、水源の森林づくりとして管理している森林面積の記述を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> <u>水源環境の保全・再生は「流域圏」という圏域で考える視点も重要であり、市町村単位で行われる地下水の保全・再生や河川の環境整備などを「流域圏」で取組むことも必要である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施の中で対応を検討します。
	<ul style="list-style-type: none"> 「目標設定の考え方」に、なぜ森林づくりのエリアを「行政が買取り、行政が管理する」のか、詳しく説明する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、水源の森林づくり事業についての説明を加えました。
	<ul style="list-style-type: none"> 「シカの管理捕獲」の所に「PJ30参照」を付け加えるとともに、特に丹沢大山のシカの管理に関しては、PJ30による対応を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白書に、プロジェクトの関連が分かるように記述を加えました。
新たな政策課題		
	<ul style="list-style-type: none"> 構成事業2の「人工林と溪流生態系の再生」や3の「ニホンジカの保護管理の推進」、5のうち「自然環境情報の提供と環境学習の実施」などについては、PJ32「水源環境の総合的な保全・再生」の取組みと連携して取組むとともに、次期計画に向けて戦略プロジェクトの統合を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携については事業実施の中で検討します。戦略プロジェクトの統合については、次期計画に向けて検討します。